

# 「ちばエコ農産物」栽培のために！ (品目別栽培カード 18)



## さといも・マルチ栽培

千葉県農林水産部

### 1 栽培基準

さといも・マルチ栽培の栽培基準は、化学合成農薬の使用成分回数が5回以下、化学肥料使用量(窒素成分量)が9kg/10a以下です。

また、堆肥の施用量は2,000kg/10aが目安量とされています。(表1)



収穫したさといも

表1 「ちばエコ農産物」栽培基準における農薬の上限回数と窒素成分の上限量

(平成19年4月現在)

作 型	上 限 量		堆肥施用の目安量 (kg/10a)	収穫期
	化学合成農薬 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)		
マルチ栽培	5	9.0	2,000	
トンネル栽培	3	7.5	1,000	

## 2 栽培基準達成のポイントと考え方

### 1 雑草防除

マルチの被覆期間中に畦間を数回中耕することで、雑草の発生を抑え、除草剤の使用を減らします。畦間の中耕作業は、地中への根張りを深くする効果があり、土寄せ時の生育ダメージを軽減する効果もあります。

### 2 病虫害防除

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した薬剤防除例を表2に示します。さといもは、発生する病虫害が少なく、「ちばエコ農産物」栽培基準を達成しやすい作物です。しかし、センチュウ、土壌病害、コガネムシ、ハスモンヨトウなどで思わぬ被害を受ける場合がありますので、圃場により発生しやすい病虫害を十分に把握し、総合的に防除することが大切です。

表2 さといも・マルチ栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した薬剤防除例

月 旬	主要作業	農薬名	10a当たり使用量 (希釈倍数等)	対象病虫害	備考
3月 下旬	D-D		15~20・	ネコブセンチュウ	作付け10~15日前までに行う。
4月 月上旬 中旬 下旬	基肥  植付け				
5月 月上旬 中旬 下旬	中耕除草				
6月 月上旬 中旬 下旬		追肥・培土			
7月 月上旬 中旬 下旬	かん水	追肥・培土	オンコル粒剤5	9 kg/10a	コガネムシ類(幼虫)
8月 月上旬 中旬 下旬			ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍	ハスモンヨトウ
9月 10月 11月	収穫				

注) 栽培基準の上限回数まであと3剤使用できるので、病虫害が多発した場合は、「2 栽培基準達成のポイントと考え方 病虫害防除」を参考に農薬散布を行う。

印は化学合成農薬に含めない農薬

## A 輪作と種いもの選別で病害回避

乾腐病などの土壌病害では、圃場と種芋の選定が重要です。病害の無い圃場及び種いもを用いるとともに、いも表面に付いた病害虫は土と一緒に洗い流すと良いです。4～5年に1回の輪作を行い病害の増加を抑えます。かき口の維管束が褐変した種いもは使用しません。

## B センチュウ防除

ネコブセンチュウは、いもに被害を与えるほか、土壌病害の発生を助長するおそれもあります。輪作体系の中に落花生やダイコン、イネ科作物を取り入れたり、ギニアグラスやマリーゴールドなどのセンチュウ対抗植物を作付けてネコブセンチュウの密度を下げます。センチュウの被害が心配される圃場では、植付け前にD-D等で土壌かん注処理を行います。

## C コガネムシ類の防除

コガネムシ類は、6～8月に飛来した成虫が産卵し、孵化した幼虫がいもを食害します。未熟有機物はコガネムシ類の多発を招くので施用は控えます。多発が心配される圃場では、オンコル粒剤5または植付け時の薬剤土壌混和(ダイアジノンSLゾル50倍)により防除します。

## D 初期防除と化学合成農薬に含めない農薬の活用

葉を食害する主要害虫はハスモンヨトウで、主な発生時期は8～9月です。圃場での発生をこまめに観察し、若齢幼虫のうちに防除します。ハスモンヨトウ防除には化学合成農薬に含めないゼンターリ顆粒水和剤を主体に使用し、発生程度に応じて、トレボン乳剤、ラービフロアブルなどを散布します。被害が大きい産地では、フェロモン剤による地域全体としての取り組みも効果的です。

## E 適期管理で草勢維持

アブラムシ類やハダニ類は通常の発生では収量に大きく影響することは少ないです。かん水や土寄せなど適切な肥培管理により良好な草勢維持を図ります。



かん水中のさといも畑

### 3 施肥（堆肥と有機質肥料の施用）

「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例を表3に示します。

さといも・マルチ栽培では、有機質肥料や有機配合肥料を主体に施用することで、栽培基準を達成することは比較的容易です。ただし、登録名称中に「有機」などが記載された肥料でも、化学肥料由来の窒素を含んでいることが多いので、JAまたは肥料販売業者に問い合わせて、有機質由来と化学肥料由来の窒素の割合を把握しておく必要があります。

なお、本施肥例は主要農作物等施肥基準（平成16年、千葉県）に準じて作成しましたが、施肥量は各圃場ごとの土壌診断結果に基づいて決めることをお勧めします。

表3 さといも・マルチ栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例

区分	製品名	保証成分量(%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
		窒素	りん酸	加里		窒素	りん酸	加里
堆肥	牛ふん堆肥				2,000			
基肥	有機アグレット673特号	6(0)	7	3	100	6(0)	7	3
	苦土石灰				80			
	苦土重焼燐		35		40		14	
	基肥計					6(0)	21	3
追肥	化成8号	8(8)	8	8	100	8(8)	8	8
総施用量						14(8)	29	11

注) ( )内は、総窒素量のうち、化学肥料由来の窒素成分量



ちばエコ栽培のさといもの生育

この「品目別栽培カード」に記載した農薬使用は、平成19年度現地実証試験時点のもので、実際の農薬使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください。

著 作 千葉県農林水産部担い手支援課  
千葉県農林総合研究センター  
編集・発行 千葉県農林水産部安全農業推進課  
発行年月日 平成21年3月  
内容についての問い合わせ先  
千葉県農林総合研究センターTEL . 0478(59)2200  
※令和元年6月変更